

組織目標評価報告書（令和5年度）

部局名：

教育学部・大学院教育学研究科

学域名：

教育学域

部局長名：

高瀬 淳

目標・取組		目標・取組の達成状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域		教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
	関連する 中期計画の番号	
【学部】 ○令和5年度入学生より導入した学部カリキュラムを実質化するため、小学校教育専攻、中学校教育専攻、特別支援教育専攻、幼児教育専攻及び養護教諭養成課程の別に「学生指導組織」を設置し、教育実習を機軸とした丁寧な学生指導を通じ、学生の教職に対する意欲の維持・向上に取り組む。 ○令和5年度入学生の教員採用試験受験率を令和8年度に80%以上に高める中期的な目標を設定し(令和4年度67.6%)、その実現に向けた具体的な施策と評価指標を当該の「学生指導組織」を基礎単位として検討・設定・実施する体制を整備する。 ○令和5年度入学生が3年次に行う教育実習(主実習)の高度化に向けた取組状況に関する外部評価を令和6年度に受けることを計画し、これに向けた準備を組織的に行う(評価指標の検討・設定を含む)。 【研究科】 ○専門職学位課程においては、令和7年度からの特別支援学校教諭専修免許状取得課程の開設や教員免許を有しない者を対象とした3年制プログラムの導入に向けた取組を推進し、令和7年度の学生定員に対する実入学者の比率を100%に高める(特別支援教育特別専攻科・養護教諭特別別科の廃止手続きを含む)。 ○修士課程においては、令和7年度からの教育データサイエンス学位プログラムの開設に向けた取組(手続き)を進め、修士課程のカリキュラムを改善する。	(1-2) (2-1) (2-2)	
		【学部】 1. 令和5年度入学生を対象として、小学校教育専攻、中学校教育専攻、特別支援教育専攻、幼児教育専攻及び養護教諭養成課程の別に「学生指導組織」を設置し(内規の制定)、学生の教職に対する意欲の維持・向上を図る学生指導体制を構築した。 2. 令和5年度入学生の教員採用試験受験率を令和8年度に80%以上に高める中期的な目標を設定し、その実現に向けた具体的な施策と評価指標を学部の基本委員会を単位として検討し、基礎データの収集に取り組んでいる。 3. 令和5年度入学生が3年次に行う教育実習(主実習)の高度化に向けた取組状況に関する外部評価を令和6年度に受けることを計画し、教師教育開発センターと連携しながら評価指標を検討している。 【研究科】 1. 専門職学位課程において、学生定員を安定的に充足させる観点から、文部科学省並びに全学と協議しながら、特別支援学校教諭専修免許状取得課程の設置、教員免許を有しない者を対象とした3年制プログラムの開設及び学部一貫5年制プログラムの導入に向けた具体的な準備・手続きを進めている。 2. 修士課程において、令和7年度からの教育データサイエンス学位プログラムの開設に向けた準備・手続きを進めている。 3. インドネシア教育大学とのダブルディグリー制を導入し、令和6年度より、修士課程に2名の学生を受け入れる。
②研究領域		研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
	関連する 中期計画の番号	
【学部・研究科共通】 ○学部・研究科教員それぞれの個人研究に加え、多様な人的資源を活かした教育並びに教師教育にかかる共同研究を促進することにより、科研費獲得率を50%以上に引き上げる。 ○科研費をはじめとした外部資金の獲得を目指し、地域の教育課題の解決や教師教育の質的向上に向けたプロジェクト型の研究を組織的に立ち上げ、科研費等への応募・申請を含めた取組の推進を支援する。 ○学部・研究科に設置されたESD協働推進センター、教育実践データサイエンスセンター、国際創造性・STEAM教育開発センターによる共同研究を推進するため、その活動全般に関する評価指標を開発し、適切に自己点検・評価する体制を整備する。 ○ESD/SDGs並びにSTEAMに係る教師教育を推進するため、主に海外協定大学・機関の研究者交流並びにそれに基づく共同研究を支援・推進し、国際共著論文数・Q1ジャーナル掲載数の増加を実現する。 ○研究倫理を順守するための必要な措置として、研究倫理委員会関連の規定類の改訂・整備を行い、FD研修を含めたコンプライアンス教育を組織的に推進する。	(1-2) (8-1) (9-2)	
		【学部・研究科共通】 1. 学部・研究科教員それぞれの個人研究に加え、多様な人的資源を活かした教育並びに教師教育にかかる共同研究を促進することにより、科研費申請件数が昨年度に比べて8件増加した。教育学研究科教員による令和7年度の科研費採択件数(継続含む)を55件に引き上げる目標を設定した(令和5年度47件)。 2. ESD/SDGs並びにSTEAMに係る教師教育を推進するため、インランド・ノルウェー応用科学大学教育学部で共同研究大会を開催するなど、研究交流並びにそれに基づく共同研究を継続的に支援・推進している。 3. 研究倫理委員会への申請件数が増加していることに対応するための体制の再構築が課題となっている。
<研究科の系としての目標・取組> ※研究科の系として独自の目標・取組がある場合は、こちらにご記入ください。		
③社会貢献(診療を含む)領域		社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
	関連する 中期計画の番号	
【学部・研究科共通】 ○岡山大学教師教育開発センター、(独)NITS岡山大学センター及び教育委員会との責任ある互恵関係に基づき、教職員を対象とした多様な研修講座を開発・実施し、協働的な学校組織文化に支えられた教員集団を形成する現職教員研修の機能を強化・拡充する。 ○様々なステークホルダーと連携・協働した現職教員研修講座の成果確認と評価モデルの確立に向けた取組を推進し、研修の高度化・モデル化に向けた取組を研究的な視座から実施・分析・発信するなかで、競争的資金を継続的に獲得する。 ○岡山県並びに岡山市との連携・協働に基づいたプロジェクトを組織的に展開することにより、岡山県・岡山市の教育施策を評価し、教育課題の解決や教育政策の立案・分析などに寄与する専門的な知見を蓄積・発信する。 【附属学校園】 ○附属学校園において、公立学校教員に対する体験型研修などを(独)NITS岡山大学センターと連携しながら実施し、附属学校園を地域の教職員研修ネットワークの拠点に位置づける。	(1-1) (6-1)	
		【学部・研究科共通】 1. 岡山大学教師教育開発センター、(独)NITS岡山大学センター及び教育委員会との責任ある互恵関係に基づき、教職員を対象とした多様な研修講座を開発・実施し、現職教員研修の機能を継続的に強化・拡充している。 2. 文部科学省委託事業である教員研修の高度化に関するモデル開発事業において申請した3件すべてが採択され、獲得した競争的資金に基づいた取組を岡山県並びに岡山市との連携・協働しながら展開した。 3. 上記のモデル開発事業の発展として、岡山市教育研究研修センターの施設整備やプログラム開発に計画段階から関与する協働体制を構築した。 【附属学校園】 1. 附属学校園において、公立学校教員に対する体験型研修などを(独)NITS岡山大学センターと連携しながら開発・実施し、附属学校園を地域の教職員研修ネットワーク拠点とする取組を進めている。 2. 附属学校園教員による研修履歴の記録・証明の制度を整備している。
④管理運営領域		管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
	関連する 中期計画の番号	
【学部・研究科共通】 ○若手・女性教員を優先的に採用する方針(岡山大学ダイバーシティ&インクルージョンポリシーを含む)を教授会等で確認し、公募にあたっては、原則として、「講師又は助教」の職位の者を募集する。 ○教育学研究科・学部の教員の選考・審査等に関する基準の明確化を図る観点から、学部・研究科の教員の教育業績、研究業績及び社会における活動実績に関するの評価指標を策定・公表し、それに則した教員の活動評価並びに配置を進める。 【附属学校園】 ○令和4年度に設置した「附属学校教育研究機構」によるガバナンスの強化により、4つの附属学校園が行う組織的な教育研究の高度化、体系化及び組織化を推進する。	(2-1) (3-1) (14-1)	
		【学部・研究科共通】 1. 若手・女性教員を優先的に採用する方針(岡山大学ダイバーシティ&インクルージョンポリシーを含む)に基づいた公募を継続して行っている。 2. 教育学研究科・学部の教員の選考・審査等に関する基準の明確化を図る一環として、専門職学位課程に続いて、修士課程の教員の研究業績等に関するの評価指標を策定・公表した。専門職学位課程では、すでに明文化されている教育業績、研究業績及び社会における活動に関する評価指標に基づいた活動評価並びに配置が適切に行われている。 【附属学校園】 1. 附属学校教育研究機構によるガバナンス強化の一貫として、附属学校園の自己点検評価体制を整備した(内規の制定を含む)。 2. 全学の協力のもと、全国の附属学校園に先駆けて、附属学校園にスクールロイヤーを配置した(週1回)。

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5~1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。